

一般質問

年度比5%増の約5万6300冊となっている。これからもいろいろな催し物の開催を含め、貸出冊数を増やす努力をしていきたい。

郷土史料館の昨年の入館者数は約120人であり、年々減少している。要因は展示品の固定化によるものと考えている。今後は地元になんだ展示やイベント等の工夫により、新たな利用拡大を図っていきたい。

②第7次社会教育計画に基づき、今年度までの5年間、青少年から高齢者まで学ぶことができるよう、幅広く各種事業を実施している。また、小学生を対象とした事業への、生涯学習ボランティアの派遣等により、子どもと大人の関わり合いを深めているところでもある。

来年度から5年間の第8次社会教育計画は、原案を示し、町民の皆さまから意見をいただいて、今年度中に策定する。



図書館で行われていた、小学生対象事業チャレンジクラブ「図書館探偵」の様子

国民健康保険税の軽減

佐藤幸一 議員

町長は、4期目の選挙における「まちづくりの約束」で「国民健康保険税の軽減を図る」と約束している。予算編成に伴い、新年度に向けた取り組みについて伺う。

①7割、5割、2割軽減の被保険者への上乗せ軽減を図る考えはないか。

②一般会計からの繰入れを増やすことで、1世帯

当たりの引き下げを検討すべきでは。

③18歳未満の子どもの均等割額を廃止することで、保険税負担の軽減を図る考えはないか。

高薄町長

①公約は現状から保険税を上げないことであり、他町村が上げている中で上げていないことでは、軽減しているものと理解している。

②一般会計からの繰入れを今年度は9800万円としているが、国民健康保険の加入者は町民の約3割であり、むやみに繰入れをすると他方面に影響が出る。繰入れを増やして引き下げを検討するには町民の理解を得なければならぬ。

③18歳未満の子どもの均等割額を廃止すると、対象者は約400人で、金額にして1300〜1400万円の減収になる。財政状況を考えると他に優先するものがあり、今以上に軽減する考えはない。

十勝清水駅跨線橋対策の調査研究

佐藤幸一 議員

十勝清水駅は、町民と期成会の長年の要望活動により、現在では特急列車上下線合わせて12本が停車するなど利便性が高くなったが、高齢者や障がい者が跨線橋を渡ることは困難を極めている。

新年度の予算編成にあたり、エレベーターだけにかかわらず、跨線橋の階段対策について幅広く調査研究するための予算化を図り、現状から一歩踏み出す考えはないか伺う。

高薄町長

一番ホームへの乗り入れは、8両編成の特急列車になるとホームが短く、線路が曲がっているためまっすぐにしなければなりません。また、地下に埋まっている通信網一式も

パブリックコメントの現状と改善策

高橋政悦 議員

町民意見を反映させるためのパブリックコメント制度（町民意見提出制度）が導入されてから9年。各種計画の策定時には何度となく実施されているが、寄せられる意見はほとんどなく、制度が機能しているとはいえない。制度の存在を知らない町民が圧倒的に多いの

が現状である。

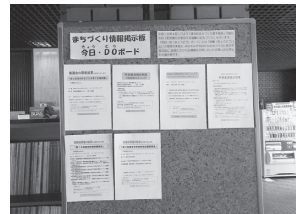
この制度の重要性と今後の展開について伺う。

パブリックコメント同様、町民の意見を聞く手法にモニター制度があるが、現在本町で行われているモニター制度の詳細と成果について伺う。

高薄町長

何か良い方法がないものかと思うところであり、意見を出してもらうには焦点を絞って、「ぜひここだけは」というような募集方法も必要だと思うので研究していきたい。

現在、モニターを置いているのは広報と学校給食であるが、公募しても応募が少なく、町民の意見を聞く手法を変えていく必要があると感じている。



町民の意見を募集しているが、寄せられる意見は非常に少ない。